

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 二島 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

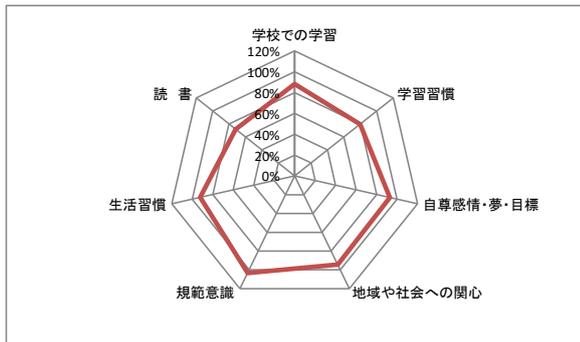
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・【読むこと】においては全国平均正答率との開きは少ないが、【話すこと・聞くこと】【書くこと】において、全国平均正答率との開きが大きい。 ・問われたことに対して解答しない無答率は少ないが、漢字を文の中で正しく使うことに関して、無解答率が若干高かった。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	【読むこと】において、文章の構成をとらえて内容の中心となる事柄を把握する	下回っている
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・【書くこと】において、目的や意図に応じて、理由を明確にしながら自分の考え方が伝わるように書き表し方を工夫する ・【読むこと】において、与えられた条件や目的を意識して、中心となる語句や文を見付け、文章を要約する 	

算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・【変化と関係】においては全国平均正答率より上回っているが、【数と計算】【測定】【データの活用】において、全国平均正答率との開きが大きい。 ・問われたことに対して解答しない無答率は少ないが、与えられた説明を解釈した上で、立式をする理由を記述することに関して無解答率が若干高かった。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	【変化と関係】において、速さや時間、道のりを求める式とその答えの意味理解	下回っている
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・【図形】【測定】において、複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や加法性を基にしてとらえて比較する ・【データの活用】において、グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する ・【データの活用】において、どのようなデータを集めるべきか判断する 	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣は身に付いているが、朝食を毎日食べていない状況にある児童もいる。 ・自尊感情や規範意識が高く、決めたことをやり遂げようとしていたり、友達と協力して活動したりする意識が高い。 ・地域行事への参加が抜きんでて高く、地域への愛着が強い。 ・学校での学習活動は教科を問わず積極的に取り組み、自己の表現や友達との関わり合いにおいて考えを深めている。しかし、家庭での学習や読書時間が少なく、学習したことをより定着させることに課題がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間に学習したことを学級全体や個人で必ず振り返り、次の時間への学習へつなげるようにする。 ・補充学習として、朝自習等の時間を活用する。算数科では計算領域、国語科では学年別配当漢字の復習に重点を置いて取り組む。 ・読書量を増やすために、全校一斉に「わたしの読書記録」の取組を継続して行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任だけでなく養護教諭や委員会活動と連携を図り、生活習慣の改善を図る呼びかけを行う。 ・学校通信や学年学級通信等を通じて、保護者にも家庭学習や読書活動の啓発を行う。
--